様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３３２００１８

研究課題名（和文）宗教文化教育の教材に関する総合研究

研究課題名（英文）A General Study of Materials Used in Religious Culture Education

研究代表者
井上　順孝（INOUE, NOBUTAKA）

國學院大學・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：８００１１３８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究によって現代における宗教文化教育にとって教材のオンライン化がきわめて有効であることが示された。本科研のウェブサイトを利用して、研究の結果得られた成果を公開した。すなわち宗教文化教育のための基本文献の解説、宗教文化に関わる世界遺産のデータベース、映画と宗教文化に関わるデータベース、そして宗教文化教育に有用な日本の博物館に関するデータベースである。
国際フォーラムの開催、多くの大学の教員が参加した研究会を通して、宗教文化教育はグローバル化が進行する世界において大きな課題となっており、それに対する取り組みがそれぞれの国の宗教文化を基盤にして行われていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：Our research has found that using online teaching materials can be extremely effective for carrying out religious culture education. The materials that were produced over the course of our research have been made available through our website. They include commentaries on the basic texts used in religious culture education, a database of world heritage properties associated with religious culture, a database related to film and religious culture, and a database of museums in Japan that are particularly useful for religious culture education.
Discussions at forums with an international framework and at study meetings attended by scholars from many Japanese universities have also made it clear that religious culture education has become an important issue in the context of ongoing globalization. Various initiatives are being undertaken grounded in the religious cultures of the countries concerned.

研究分野：宗教社会学

キーワード：宗教文化教育　宗教社会学　現代宗教　オンライン教材　宗教史

１．研究開始当初の背景

宗教教育についての研究は 1990 年代半ばから新たな展開が始まった。戦後の宗教教育に関する研究は、道徳や倫理、あるいは宗教的情操との関係について着目する研究が多かった。しかし、1995 年にオウム真理教による地下鉄サリン事件が起こってから、いわゆるカルト問題との関わりも宗教教育のテーマに含まれるようになった。また多文化状況の進行によって、現代宗教についての理解の必要性が論じられることが多くなった。そして公立学校において可能な宗教教育というものは、どのようなものであるかについての研究が出現するようになった。

ヨーロッパの学界においても、グローバル化の進行やヨーロッパにおけるイスラームの影響の強まりを背景に、宗教教育についての研究は新たな課題をになった。宗教研究の代表的な国際学会である IAHR（国際宗教学宗教史学会）や SISR（国際宗教社会学会）などにおいても、宗教教育をテーマに発表する研究者が増加してきた。

2006 年 12 月には教育基本法が改正され、宗教教育に関する条項には「宗教についての一般的教養」を尊重するという点があらたに付け加わった。これは公立・私立を問わず、宗教についての研究を新たな視点で推し進めるべき時代になったことを意味する。日本も国際化・グローバル化に伴う社会変動を強く受けており、宗教の問題を従来と同じような観点から議論していては、十分明らかにできない側面が数多く出現してきたことが強く認識されるようになった。

宗教文化教育についての議論は、こうした背景のもとに興ったものであるが、とりわけどのような教材を開発すべきかが喫緊の課題であることは明らかであった。そこでこの問題に正面から取り組む研究が必要になったという認識が広く共有されるようになっていた。

２．研究の目的

宗教文化教育の教材に関わる研究において、まずこれまでの宗教教育における教材の現状を明らかにした上で、グローバル化、情報化という現代の状況を踏まえた上での宗教文化教育の具体的方法について研究することを目的とした。

グローバル化が進行する時代には、これまでの宗教教育において用いられてきた教科書、参考書、副読本、その他では不十分な点は何かを明らかにする必要がある。これを教育する側とされる側の双方の立場から検討していく。また情報化時代には、印刷物だけではなくデジタル化された教材がしだいに広く用いられるようになっているので、デジタル教材はどのような特性をもち、どのような可能性と問題点とを有しているかを明らかにすることをとりわけ重要な課題として設定した。

さらに宗教文化教育は学校における教育にとどまるものではないという立場から、学校を卒業し社会人となった人たちにとっても利用可能な教材は何かということも考察していくことにした。

宗教文化教育の調査・研究には、なによりも教員相互のネットワーク形成が不可欠という立場から、研究会、共同調査などを重ね、どのようなネットワークを形成することがより充実した宗教文化教育の展開につながるかを考察し、具体的システムを構築することとした。

３．研究の方法

（1）基礎的資料・データの収集と分析

従来の宗教教育に関する資料・データに加えて、宗教文化教育を目指すときに参考となる資料・データを収集し、これをデータベース化するという作業を行った。

（2）アンケート調査

宗教文化教育に対して授業を受ける側の学生がどのように受け止めるかも知る必要があるので、全国の数千人の学生を対象にアンケート調査を実施し、その結果を分析した。これは國學院大學日本文化研究所のプロジェクト等の協力を得て 2012 年度に実施した。

また宗教文化士認定試験が実施されるたびに、宗教文化教育推進センターの協力を得て、受験者に対するアンケート調査を実施した。これは 2011 年度から 2014 度まで毎年実施した。

（3）宗教文化教育の具体的教材の作成とオンライン公開

この研究で蓄積した研究を広く公開するためにホームページを作成して、宗教文化教育推進センターとの協力のもとに、構築された教材のウェブ公開をした。テーマが拡散しないように、「宗教文化を学ぶための基本書」、「世界遺産と宗教」、「映画と宗教文化」、「博物館と宗教文化」に絞ってデータを蓄積させた。

（4）教育法の開発

具体的に宗教文化教育の方法を検討するために、2011 年度から 14 年度まで毎年数回の研究会を開催し、教材作成方法と教育方法についての議論を重ねた。また学生・院生を交えて、実際に毎年宗教施設を見学して宗教教団の活動について知識を養い、さらに龍谷大学龍谷ミュージアム、東洋文庫などの施設も見学して、展示物を見た上でそれが宗教文化教育にどのように組み込まれるべきかについての考察を重ねた。

（5）国際フォーラムの開催

国外における宗教文化教育の現状を調べ、国外の研究者との意見交換を図るため、年 1 回秋に外国人研究者を 2 名程度國學院大學に

招いて国際フォーラムを開催した。

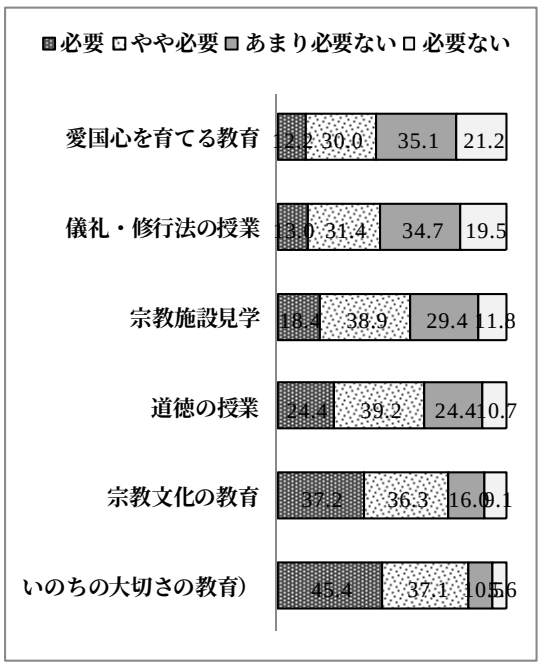
４．研究成果

（1）デジタル教材の作成と公開

宗教文化教育のための基本となる研究文献のリストを作成し、「宗教文化を学ぶための基本書」としてウェブ上で公開した。宗教と深い関わりをもつ世界の文化遺産について、グーグルマップを利用してウェブ上に位置情報を示すとともに、収集した世界遺産の写真、説明文を付した。宗教文化を理解する上で役に立つと考えられる映画について、それをデータベース化するとともに、主な映画について、どのようなシーンが宗教文化に関わっているかについての説明文を付した。これもグーグルマップを利用して、映画の舞台となった場所を示した。宗教文化を学ぶ上で便利な国内の博物館のデータベースを作成するとともに、主なものについては収蔵品の特徴を解説した。これも博物館の場所をグーグルマップを利用して示した。これらのデータの一部は DVD としても利用できるようにした。これらにより、宗教文化教育の教材として直ちに利用できるものについて、具体的に提示することができた。

（2）アンケート調査の報告書作成

2012 年度に実施したアンケート調査では全国 30 の大学に通う 4,094 名の学生から有効回答を得ることができ、学生の宗教文化教育に対する関心度を明らかにすることができた。他の類似の教育と比較しての宗教文化教育への関心度は次のグラフで示される結果となった。



宗教文化士認定試験の際に行った調査からは、適切な教材が少ないことを指摘する意見が多く、それらの作成とそれらについての情報を欲していることが分かった。

（3）e-learning 教材の開発

本研究のメンバー以外にも宗教文化教育に関心を抱く大学教員に参加を呼び掛けて行った研究会を通して、e-learning 教材の開発の必要性が議論されたので、世界の主な宗教についての e-learning 教材の試作品を作成した。修正を加えて近い将来に使用できるような準備を行った。

（4）国際フォーラムの実施

次のような国際フォーラムを開催し、そのうち①～③については結果を報告書としてまとめた。

①「デジタル映像時代の宗教文化教育―開かれたネットワークによる取り組み」（2011 年 10 月 16 日、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所と共催）

②「宗教文化教育の射程―文学と美術をめぐって―」（2012 年 9 月 29 日、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所と共催）

③「日常生活と宗教文化―戒律をめぐる問題を中心に」（2014 年 2 月 13 日、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所と共催）

④「ミュージアムで学ぶ宗教文化――デジタル時代のチャレンジ」（2014 年 9 月 27 日、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所と共催）

これらの会議において、宗教文化教育が日本とヨーロッパ諸国においては、きわめて似通った問題意識が共有されていること、そして国際的なネットワークによる教材の共有が求められていることが明らかになった。

（5）国外における調査と研究発表

2012 年 8 月 31 日、北京で開催された国際会議で、研究代表者が文化セッションで議長を務め、日本で試みられている宗教文化教育について説明した。2013 年 9 月に同じく研究代表者が米国のボストン美術館を訪問し、展示資料に含まれている宗教文化について調査した。またボストンに本部があるキリスト教科学を調査し、基本資料を収集した。これによって得られた知見は、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報に報告した。2014 年 5 月には、研究代表者が中国の鄭州、及び西安市において中国の宗教文化に関する調査を行い、一部をオンライン教材として活用した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 33 件）

①<u>井上　順孝</u>、宗教文化教育の教材としての日本映画、國學院大學研究開発推進機構紀要７、査読有、2015、pp1―36
http://www.kokugakuin.ac.jp/content/000057455.pdf

②<u>土井　健司</u>、「キュプリアヌスの疫病」考、神学研究 62、査読無、2015、pp25―39

③櫻井　義秀、傾聴する仏教、宗教と社会貢献 5-1　査読有、2015、pp29―53
④井上　順孝、宗教文化教育の教材としての映画、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報７、査読無、2014、pp26―57
http://www.kokugakuin.ac.jp/content/000055752.pdf
⑤井上　順孝、教祖論への認知宗教学的アプローチ、中央学術研究所紀要 43、査読無、2014　pp15―36
⑥平藤　喜久子、Deities in Japanese popular culture　Klaus Antoni eds., Sources of Mythology、査読無、2014、pp71―80
⑦井上　順孝、”新宗教”研究の射程―新興宗教から近代新宗教へ、市川裕編『世界の宗教といかに向き合うか　月本昭男先生退職記念献呈論文集第 1 巻』、聖公会出版、査読無、2014、pp　19―37
⑧土井　健司、新約外典文書におけるフィランスロピアの用例、神学研究 61、査読無、2014、pp145―152
⑨井上　順孝、宗教の境界線―学生に対する意識調査から、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報 6、査読無、2013、pp40―66
http://www.kokugakuin.ac.jp/content/000046567.pdf
⑩岡田　正彦、A Genealogy of Discourse on Self-cultivation in Modern Japan　Gerhard Marcel Martin & Katja Triplett, ed.　、Purification: Religious Transformations of Body and Mind、査読無、2013、pp93―106
⑪櫻井　義秀、限界寺院からソーシャル・キャピタルの寺院へ、社会と調査 10、査読無、2013、pp97―101
⑫塚田　穂高、宗教文化教育の到達目標に関する一考察―第 1～4 回宗教文化士試験問題の分析から―、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報 6、査読無、2013、pp67―83
http://www.kokugakuin.ac.jp/content/000046568.pdf
⑬井上　順孝、二十一世紀の教派神道、國學院大學研究開発推進機構紀要 5、査読無、2013、pp1―22
⑭岡田　正彦、A Forgotten Buddhist Astronomy：History of Bonreki Movement in 19th Century Japan、University of London, JRC Seminar、査読無、2013、pp26―35
⑮井上　順孝、Media and New Religious Movements in Japan, Journal of Religion in Japan2、査読有、2012、pp121―141
⑯井上　順孝、新宗教研究にとっての認知活動科学・ニューロサイエンス、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報 5、査読無、2012、pp21―48
⑰井上　順孝、情報時代の宗教教育を考える、聖心女子大学キリスト教文化研究所編『宗教なしで教育はできるのか』、春秋社、査読無、2012、pp29―56
⑱井上　順孝、教育における宗教情報リテラシー―「宗教文化士」制度発足の背景、宗務時報 113、査読無、2012、pp1―16
⑲井上　順孝　グローバル化・情報化時代における宗教教育の新しい認知フレーム、宗教研究 369、査読有、2011、pp111―137
⑳井上　順孝、宗教文化士制度発足への歩み、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報 4、査読無、2011、pp37―43
http://www.kokugakuin.ac.jp/content/000032582.pdf
㉑櫻井　義秀、東アジアにおける宗教文化変容の比較研究　特集：国際比較調査の困難性と可能性、社会と調査 11、査読無、2011、pp42―50
㉒櫻井　義秀、ソーシャル・キャピタル論の射程と宗教、宗教と社会貢献 1-1、査読有、2011、pp27―51

〔学会発表〕（計　13 件）
①櫻井　義秀、Comparative study of religions and society in late modernity of East Asia、Congress of Hong Kong Asian Social Science、香港大学、中国、2014
②井上　順孝、Japanese new and traditional religions in the information and globalization age: A consideration of various changes experienced since the mid-1970s、ハーバード大学ライシャワー研究所 40 周年記念シンポジウム、ハーバード大学、アメリカ、2013
③平藤　喜久子、Deities in Japanese popular culture 、International Association for Comparative Mythology、チュービンゲン大学、ドイツ、2013
④井上　順孝、Religion in Films and Religious Culture Education in Contemporary Japan、南カリフォルニア大学日本文化研究所設立記念講演、南カリフォルニア大学、アメリカ、2012
⑤井上　順孝、自然災異の神道的表象の認知宗教学的アプローチの試み、日本宗教学会、関西学院大学、2011
⑥岡田　正彦、近代仏教と須弥山儀―梵暦運動と日本の近代―、日本宗教学会、関西学院大学、2011
⑦木村　敏明、公共を模索する宗教―東日本大震災後の動向―、公共哲学京都フォーラム、神戸ポートホテル、2011

〔図書〕（計 13　件）
①櫻井　義秀・平藤　喜久子　他、ミネルヴァ書房、よくわかる宗教学、2015、216
②櫻井　義秀・外川　昌彦・矢野　秀武　他、北海道大学出版会、アジアの社会参加仏教―政教関係の視座から、2015、437
③井上　順孝他、平凡社、21 世紀の宗教研究―脳科学・進化生物学と宗教学の接点、2014

215
④櫻井　義秀、北海道大学出版会、カルト問題と公共性－裁判･メディア･宗教研究はどう論じたか、2014、362
⑤井上　順孝　他、東洋経済新報社、ビジネスマンのための「世界の宗教」超入門、2013、250
⑥井上　順孝　他、丸善出版株式会社、世界宗教百科事典、2012　　、891
⑦土井　健司、朝日新聞出版、キリスト教は戦争好きか、2012、256
⑧櫻井　義秀　他、ミネルヴァ書房、日本に生きる移民たちの宗教生活、2012、296
⑨星野　英紀　他、弘文堂、聖地巡礼ツーリズム、2012、272
⑩井上　順孝、日本実業出版社、宗教学がよくわかる、2011、246
⑪星野　英紀、吉川弘文館、四国遍路拿－さまざまな祈りの世界、2011、211
⑫李　元範・櫻井　義秀　他、北海道大学出版会、越境する日韓宗教文化－韓国の日系宗教　日本の韓流キリスト教、2011、512

〔産業財産権〕
なし

〔その他〕
ホームページ等
http://www2.kokugakuin.ac.jp/erc/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
井上　順孝（INOUE, Nobutaka）
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：８００１１３８６

(2)研究分担者
星野　英紀（HOSHINO Eiki）
大正大学・文学部・教授
研究者番号：００００５４６６９

岡田　正彦（OKADA Masahiko）
天理大学・人間学部・教授
研究者番号：００３０９５１９

櫻井　義秀(SAKURAI Yoshihide)
北海道大学・文学研究科・教授
研究者番号：５０１９６１３５

土井　健司　(DOI Kenji)
関西学院大学・神学部・教授
研究者番号：７０２４２９９８

小田　淑子　(ODA Yoshiko)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：８０１６９３１７

木村　敏明　(KIMURA Toshiaki)
東北大学・文学研究科・准教授
研究者番号：８０３２２９２３

(3)連携研究者
平藤　喜久子（HIRAFUJI Kikuko）
國學院大學・研究開発推進機構・准教授
研究者番号：５０３８４００３

黒崎　浩行（KUROSAKI Hiroyuki）
國學院大學・神道文化学部・准教授
研究者番号：７０２９６７８９

稲場　圭信（INABA Keishin）
大阪大学・人間科学研究科、准教授
研究者番号：３０３６２７５０

岩井　洋（IWAI Hiroshi）
帝塚山大学・経済学部・教授
研究者番号：３０２６９９５６

加瀬　直弥（KASE Naoya）
國學院大學・神道文化学部・准教授
研究者番号：５０４４５４５９

河野　訓（KAWANO Satoshi）
皇学館大学・文学部・教授
研究者番号：２０３２９９０７

久保田　浩（KUBOTA Hiroshi）
立教大学・文学部・教授
研究者番号：６０４３４２０５

澤井　義次（SAWAI Yoshitsugu）
天理大学・人間学部・教授
研究者番号：３０１７８８２６

鈴木　岩弓（SUZUKI Iwayumi）
東北大学・文学研究科・教授
研究者番号：５０１５４５２１

塚田　穂高（TSUKADA Hotaka）
國學院大學・研究開発推進機構・助教
研究者番号：４０５８５３９５

田中　雅一（TANAKA Masakazu）
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：００１８８３３５

西岡　和彦（NISHIOKA Kazuhiko）
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：８０３４８８７０

矢野　秀武（YANO Hidetake）
駒澤大学・文教育学部・准教授
研究者番号：２０４２２３４７